

子どもたちの未来のために

板橋区「子ども食堂」実態・状況調査報告

ならびに同調査を基にした政策提案

板橋フォーラム実行委員会

2019年6月15日

板橋区「子ども食堂」実態・状況調査および政策提言で伝えたいこと

1 「子ども食堂」を運営されている方の「思い」

2 「子ども食堂」の**実態・状況**（2019年2月）

3 「子ども食堂」の調査結果（運営者の希望・要望等）を踏まえた**政策提案**

板橋フォーラム実行委員会による「子どもの貧困」への取り組み

【きっかけ】

板橋区立小中学校の全児童・生徒**35.86%**（3人に一人）に就学支援（2017年春、行政監査報告書より）

【取り組み】

- 「板橋区地域政策勉強会」（毎月1回開催、6月までに127回実施）で「子どもの貧困」を扱う
- 第16、17回（2017、2018）「いたばし協働・市民フォーラム」で「子どもの貧困」をテーマに啓発活動。
- 「子ども食堂」のヒアリングによる実態・状況調査（2018年12月～2019年3月）の実施

板橋フォーラム実行委員会は、2002年にボランティア振興、自治・協働の推進を目指し、スタートした民間団体です。各種勉強会、講演会・シンポジウム、調査研究活動等を行っています。

最近2年間、11月に開催した「いたばし・協働 市民フォーラム」では、子どもに着目して「格差」「貧困」を取り上げました。

【第16回(2017年)】 木村草太さんによる講演とシンポジウム



シンポジスト

星野光弘 氏(埼玉県富士見市長)

中妻穰太 氏(板橋区議会議員・子どもの貧困対策調査特別委員長)

森 弘 氏(板橋区役所 子ども家庭部長)

小田川 華子 氏(首都大学東京 子ども・若者貧困研究センター特任研究員)

【第17回(2018年)】 湯浅誠さんによる講演とシンポジウム



シンポジスト

清水聖義 氏(群馬県太田市市長)

長瀬達也 氏(板橋区議会議員・子どもの貧困対策調査特別委員長)

榎木恭子 氏(板橋区役所 子ども政策課長)

岩永理恵 氏(日本女子大学准教授)

第1章

「子ども食堂」実態・状況調査結果

ヒアリング調査（2018年12月27日～2019年2月）

1 調査概要

(1) 調査目的

板橋区の「子ども食堂」の**現状**、**開始時**の様子、**今後**の展望、行政への**要望等**をまとめ、区民、行政等の関係者へ知らせる。

「子ども食堂」の**将来像**を示し、**具体化するための方策**について提案する。

(2) 調査理由

板橋区の「子ども食堂」数は現在増加しつつある。なぜ増加するのかその理由を探りたいと思った。「子ども食堂」の関係者に話（思い）を聞けば、「子ども食堂」から見た板橋区の課題が見えてくると考えた。

「子ども食堂」数は全国では、「子ども食堂」が **3,000 ヶ所以上**。(2019年3月)

板橋区には **16 ヶ所以上**の「子ども食堂」。さらに数カ所で開設予定。(2019年2月)

訪問先一覧

	子ども食堂名	場所	備考		子ども食堂名	場所	備考
1	ケアポート板橋 かもめ子ども食堂	舟渡	高齢者介護施設	9	南蔵院こども会	蓮沼	南蔵院
2	仲間力リチタこ とぶき子ども食堂	相生町	レストラン	10	前野町子ども食堂 わくわくランド	前野町	デイサービス
3	福まね嬉子ども食堂	徳丸	自宅	11	ケアタウン成増子ども食堂たんぽぽ	成増	高齢者介護施設
4	まちカフェ	徳丸	集会所	12	ふれあい食堂	西台	信泉寺
5	聖マリアの家 マリア保育園 ごはん塾	高島平	保育園	13	あったかごはんの会	成増	まなぽーと成増
6	地域リビング プラスワン	高島平	3,4回/週	14	こども食堂@よかや	板橋	蕎麦居酒屋
7	まいにち子ども食堂高島平	高島平	毎日	15	蓮根つながり食堂	蓮根	高齢者介護施設
8	にこにこ食堂	坂下	集会所	16	坂下こども食堂	坂下	自宅
				17	こども食堂 にっこりキッチン	富士見町	4/10開催予定
				18	発元気♥食堂	北区浮間	北区、個人宅

2018年12月27日～2019年2月11日に訪問しました。

主な調査項目（1）

		調査項目
1	開始時	1)「きっかけ」 2)開始時期 3)克服しなければならなかったこと 4)準備したこと（金銭面、場所、スタッフ、設備等）。 5)新たに始める方へのアドバイス
2	現状	1)利用者の人数 2)開催の回数、時間及び利用者の滞在時間 3)利用する方の種類 4)スタッフは、どのような方々ですか。 5)利用料金の設定金額 6)運営の仕方（考え方、仕方、スタッフ） ①開設理由、②内容や特徴、③心掛けていること、④運営の仕方、⑤運営のルール、 ⑥スタッフへの要望、⑦抱えている課題と対策 7)利用者を感じていること
3	今後の展開	1)「子ども食堂」を維持・継続（キープ）していくための対策は何か。 ①提供しているもの（食事や居場所など）について ②支えている資金、支援物資（食材ほか）、スタッフについて 2)「子ども食堂」の今後の展開や方向性

主な調査項目（2）

調査項目		
4	行政への要望	1)「子ども食堂」を運営する上で、行政に要望することは何ですか。 ①子ども食堂ネットワークの構築、②子ども食堂の認知度向上策、③子ども食堂開設場所の支援、④ワンストップの総合相談窓口、⑤子ども食堂開設・運営に関する物的・経済的支援、⑥行政
5	その他	1)子ども食堂に来て欲しい人や家庭について 2)リスク管理について、保険等 3)子ども食堂と地域との連携について

「子ども食堂」の大まかな分類

大まかな分類	数	比率	備考
イベント的	7	39%	
中間的	4	22%	
中間的・支援的	3	17%	中間的位置付け、支援的要素あり
支援的・救済的	4	22%	支援的位置付け、救済的要素あり
合計	18	100%	

注) 調査した側の主観的、印象的分類です。

「子ども食堂」の開催頻度

頻度	箇所
1回/月	7
2回/月	7
1回/週	2
2~6回/週	1
毎日	1
合計	18

「子ども食堂」の開始時期

開始年	箇所
2013年	1
2014年	0
2015年	1
2016年	3
2017年	3
2018年	8
2019年	2
合計	18

開催場所

開催場所	数	備考
個人宅	4	自宅他
NPOの施設	2	運営主体が法人
お店	2	
私的施設	5	介護施設など
公的施設	3	集会所等
宗教施設	2	寺など
合計	18	

その他の調査項目の結果

項目	概要
利用人数	1回の利用人数は数人から100人近く。
利用料金	子どもの利用料金は、無料か100円。大人は300円が多く、500円もある。一律1食100円あるいは300円としている所もあった。
スタッフ	おおむね、スタッフは充足していた。一部の「子ども食堂」ではスタッフが集まらなかったり、運営者との相性が合わなかったり、集まっても長続きしないなど問題点が挙げられた。
利用者	幼児からシニアまで、様々な世代。小学生が最多。続いて、その親御さん（ママ）。子どもとその親を対象と考えているところと誰でもウエルカムという姿勢のところがある。同じ世代が集まっている「子ども食堂」の運営者は「今後参加する世代の幅を広げたい」と考えていた。
運営状態	ほとんどが赤字
利用者のエリア	利用者は当該の小学校区及びその周辺の小学校区がほとんど。なかには区外からその「子ども食堂」に来る方もいた。
利用者の制約	ほとんどの「子ども食堂」は、「来る方は拒まず」の姿勢でした。

「子ども食堂」を維持・継続するための対策

対策

- 1 ボランティアスタッフへ交通費の支給
- 2 食材の調達先の再検討
- 3 公的助成を最大限試み、「食」の充実を図る。
- 4 スタッフの幅を広げるために元気なシニアを求める。
- 5 併せて行なっている「学習支援」を強化
- 6 開催頻度を上げる。コーディネーターの育成を図る。
- 7 「シェルター」的役割を担う。
- 8 公的資金を獲得して、必要な道具（台車）を購入する。
- 9 スタッフの世代交代を見据えた対応

対策

- 10 「美味しい食事」「くつろげる居場所」にプラスアルファを検討
- 11 入居者向け食事を子ども向けにアレンジする。
- 12 子ども、スタッフを増やす為の対策を検討
- 13 「学習支援」を行なう組織との連携
- 14 スタッフ、食材の調達、自転車の駐輪など問題を解決する。
- 15 補佐するスタッフ（右腕）の確保
- 16 考え方の合うスタッフを気長に探す。
- 17 子どもとの絆を大切にして、信頼関係を維持・継続していく。
- 18 食品衛生管理者などの資格を取得する。

運営者からの要望事項

要望項目		
1	全庁的事柄	社会的地位づけの向上促進 ネットワーク構築 ワンストップ総合相談窓口
2	行政の各部署にまたがる事柄	後援による支援 支援金の創設 駐輪場の許可（対象食堂のみ） チラシ配布（対象食堂のみ） 区設（町内）掲示板の利用（対象地域のみ） 集会所利用（対象地域のみ） 空き家情報共有 パトロールでの巡回（対象地域のみ）
3	インターネット環境に関わる事柄	運用ハンドブック インターネット掲示板の設置 パソコン等ソフト面への人的サポート

インタビューアが感じた要望事項

要望項目		
4	広報活動	講演会・講習会の開催 「子ども食堂」に関連する映画鑑賞会

2 結果から見えてくる現状と課題

「子ども食堂」について

「子ども食堂」 (**実際、思い**) を区民に知ってもらおう。

年齢、性別などを問わず、**多世代交流の場 (居場所)** が相互にプラスの効果を生み出す。

利用者にも、**運営者**にも、**ボランティア**にもメリット

当面の目標

板橋区の小学校区に少なくとも1箇所の「子ども食堂」。区内に**51**ヶ所以上が目標。

あわせて、**開催頻度のアップ**。

お願いしたいこと

やはり、**公的支援**は不可欠です。

①開設のための**初期費用**の支援

②**1週間に1回以上**開催している「子ども食堂」は、弱者を救済する社会的機能を担っている。

「子ども食堂」のポテンシャル

「子ども食堂」は「**支える力（食止める力）**」を持っており、「**引上げる力**」を秘めている。

「子ども食堂」への「思い」

共通の思い：求める人のために居場所と食事を提供したい！

「子ども食堂」は地域貢献の一環。美味しいプロの食事を提供したい。自宅でも「子ども食堂」は出来るんです。多世代交流の場を目指す。困っている子どもに受け入れを限定。「子ども食堂」の先駆けです。毎日開いてるよ、いつでも誰でもどうぞ。野菜カレーで和気あいあい。システムティックな食材発注システムで多世代協働運営。契約農家から野菜を仕入れて美味しい食事を提供。デイサービスの空きスペースを有効利用。「子ども食堂」で地域交流を促進。i-youthに來ている子どもにも食事を提供したい。家族限定で濃密な対応。4月から「子ども食堂」をスタート。毎週開催で利用者と温かい信頼関係を構築。

始める方へのアドバイス

『開催頻度、受け入れ人数（定員）などハードルを上げずに、可能な範囲で「子ども食堂」を始めてください。**無理をしない**ことです。すでにオープンしている方や賛同している協力者**多くの人**を巻きこんでのアドバイスに耳を傾けて、適宜ください。

継続していくことが、肝心です。枯れることのない情熱と途切れることのない行動力を源に、ご自身がイメージしている「子ども食堂」のかたちに徐々に近づけて行ってください。』

第2章

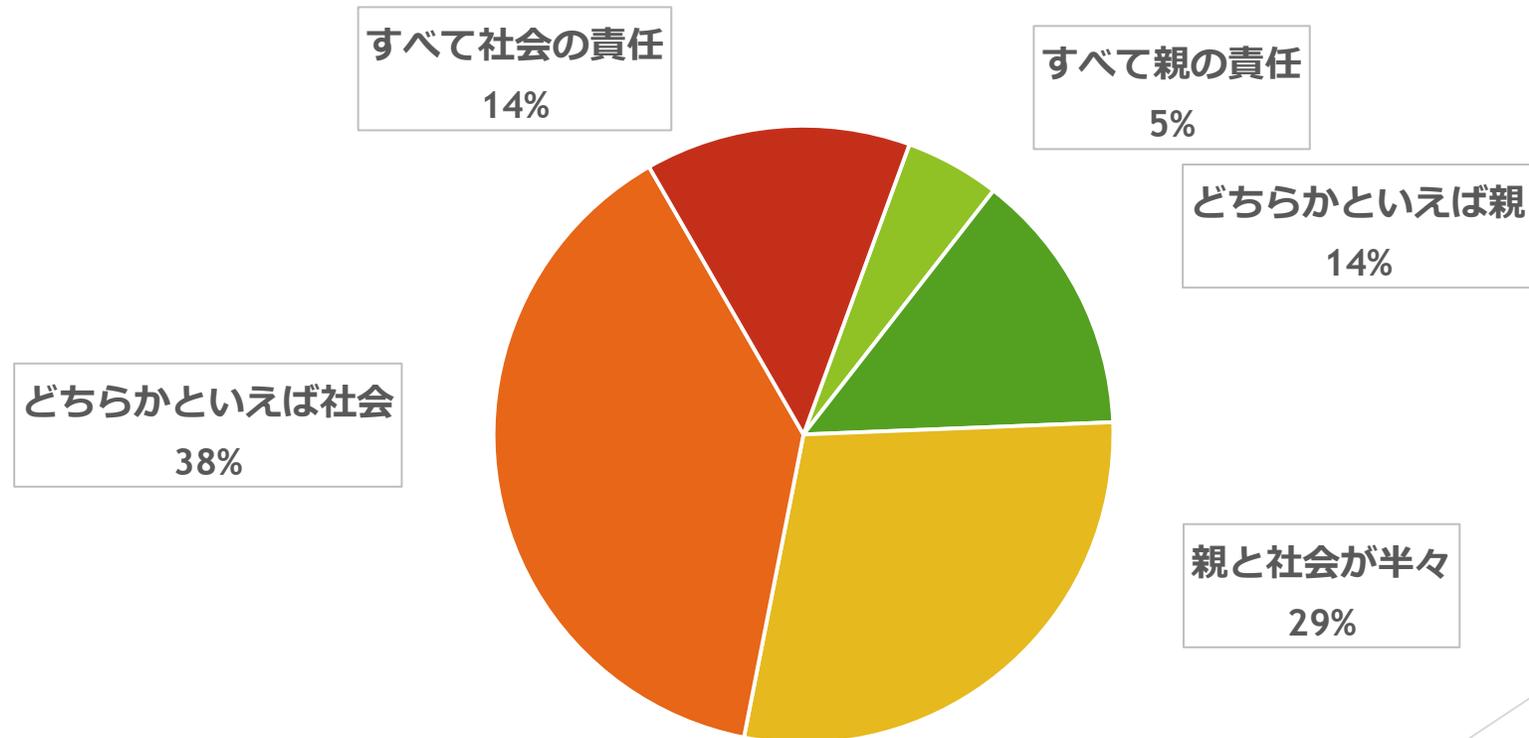
政策提案

—「子ども食堂」のヒアリング調査から見たこと—



子どもの貧困問題解決：責任論（メディアのアンケート結果）

子どもの貧困問題を解決する責任はどこにあると思いますか？



(1029回答 2017年3月 朝日新聞より)

漫画原作者 田島隆さん

- ・大海を漂流している人たちに、「遠くのゴムボートを目指せ」といっても届かない、現実感のない言葉に人は全力投球できない。「目の前の藁をつかめ」明日を少しでも良くするために藁をつかむ。案外、藁よりましな棒切れや漂流物が浮かんでいる。それをつかみ、一呼吸してから泳ぐ。少しでも進めば人生の選択肢があらわれる。
- ・苦しいけど言わない、いえない人たちの声をどのように拾えるかを考えるのが、行政の仕事でしょと言いたい。行政は「遠くにゴムボートを用意するのではなく、近くに、目の前に藁を用意すること」ではないでしょうか。

目次

1. 「子ども食堂」に対する見方
2. 「子ども食堂」に対する板橋区の取り組み
 - 1) 行政、区議会、社会福祉協議会での取り組み
 - 2) 板橋区の取り組みを、二つの視点から
 - ① 補助金の実態
 - ② HPで検索すると
3. 「子ども食堂」の目指すべき姿
4. ヒアリング調査の「生の声」
5. 「政策提案」
 - ① 全庁的な事柄
 - ② 行政の各部署にまたがる事柄
 - ③ 主としてインターネット環境に関わる事柄
 - ④ 広報活動
6. まとめ
 - ・進み始めたこと
 - ・行政・議会に望むこと

1. 「子ども食堂」に対する見方

- ・最初に「子ども食堂」ができたのは2013年頃といわれています。
- ・翌年、「子どもの貧困」は6人に1人に達していると発表されました。その後「子ども食堂」開設の動きは広がりを見せ、いまや、全国で3000カ所以上になっています。
ここ板橋区でも昨年末に調査を始めている途中にも、2カ所開所しました。
そして先月までに、さらに5カ所増えています。
- ・「子ども食堂」は、自分が行ける場所、自分が行きたい場所、いてもいい場所になっています。

子どもも、若者も、大人も、シニアも、障がいを持つ人も・・・誰でもです。
“つながり”ができる場所、それが「子ども食堂」です。

2. 「子ども食堂」に対する板橋区の取り組み

板橋区・区議会・社会福祉協議会の 「子どもの貧困対策」これまでの動き

平成27年度から
「子ども・子育て支援
事業計画」5か年計
画をスタートし、平成
29年2月中間見
直し、現在に至る

平成29年4月
区議会に「子どもの
貧困対策調査特
別委員会」設置、
平成31年3月ま
で活動

平成30年4月
子ども家庭部子ども
政策課内に子どもの
貧困対策担当係を
新設

平成31年3月
社会福祉協議会
が「子どもの居場所
マップ」作成、学校
に配布

平成29年1月
策定された板橋区
の「子どもの貧困対
策」として『いたばし
子ども 夢つむぐプロ
ジェクト』が始動
→「板橋区子ども・
若者計画2021」

平成29年7月
「板橋区ひとり親
家庭など生活実
態調査」実施

平成30年12
月 社会福祉協
議会が『いたばし
子どもの居場所づ
くり活動支援事
業』スタート

平成31年度 区長「施政方針」

平成31年度貧困対策関連予算
83事業 9,052百万円

板橋区の実情を見てみましょう。

👉 「子ども食堂」を始めたい、応援したい人が、ネットで検索すると……

「子ども食堂」に関連した言葉で
各自治体のHPを検索すると……

板橋区：最初の画面は「補助金」の説明

江戸川区：こども食堂・食事支援事業のお知らせ、

豊島区：こども若者総合相談窓口を常設した告知

練馬区、杉並区、北区、足立区などは、いずれ

も「子ども食堂」の所在地／マップ・ネットワーク

などの情報が載っています。

板橋区

トップページ > お知らせ > 子ども・子育て・教育 > 子ども食堂への補助金について

公開日:平成30年7月19日
最終更新日:平成30年7月20日

東京都による子ども食堂への助成が始まりました。
現在すでに活動を開始している子ども食堂を対象とした運営費の補助です。
平成30年度前期分の申請締切は平成30年7月27日(板橋区役所必着)となります。
後期分の募集は秋ごろの予定です。
また、平成31年度以降の募集については、現在のところ未定となっております。

補助金の申請手続については下記をご覧ください。

[このページのトップへ戻る](#)

練馬区

平成30年(2018年)8月現在子ども食堂MAPを発行しました!

更新日:2018年9月3日

練馬区内で開催されている子ども食堂

子ども食堂は、区内のNPO法人やボランティア団体等が運営しています。
区は、区内子ども食堂一覧を掲載したマップの作成を行っています。
活動内容、活動日、参加申込方法などの詳細は、各団体へ直接お問い合わせください。
※平成30年(2018年)8月現在の情報です。

練馬区子ども食堂MAP

ファイルダウンロード 新装アップデート開きます。練馬区 子ども食堂 MAP(PDF:609KB)

注記1:区内の子ども食堂のうち、区へ問合せ先
注記2:表示される子ども食堂は今後変更

配布場所

- ・区民協働交流センター(練馬1-17-1 ココ)
- ・協働推進課(区役所本庁舎9階)
- ・福祉部管理課(区役所西庁舎3階)
- ・生活福祉課(区役所西庁舎2階)
- ・生活衛生課(区役所東庁舎6階)
- ・子育て支援課(区役所本庁舎10階)
- ・練馬区社会福祉協議会(豊玉北5-14-6)

子ども若者総合相談の窓口常設は23区初!

「アシスとしま」キックオフフォーラム開催

報道発表日:平成30年6月27日

豊島区では、様々な悩みを抱える子どもや若者、その家族などを対象とした総合相談窓口を7月2日(月曜日)から区役所本庁舎4階子ども若者課に開設する。

当窓口は、平成22年に開行された子ども・若者育成支援推進法に基づく事業で、日常生活習慣、学校生活、進路、ひきこもり、家庭内暴力、非行等の課題を持つ子ども若者の相談に応じる。窓口の利用対象者は、区内在住の子どもの利用も可能。また、担当者も電話やメール、担当者が訪問するなど、相談者に負担のない方法での利用も可能。庁管内に常設される子ども若者に関する相談窓口としては23区初であり、庁内のその他専門相談窓口とも距離が近く、養育費の相談が取りやすくなる。窓口の愛称「アシスとしま」は、子ども若者を支援(アシス)する拠点という意味で、中高生センタージャンプ(旧東館)を利用する中高生約50人による提案と投票により選ばれた。

また、様々な課題を持つ子ども若者を早期に発見し、孤立させないために、新たに非常勤専門職員「子ども若者支援ワーカー」を配置した。「子ども食堂」や「無料学習支援」等、地域の活動の場に出向き、様々な理由で自ら相談できない子どもや関係者と関わることで、アウトリーチによる相談支援を充実させる。

7月1日(日曜日)には、「子ども若者の“今”“未来”」をテーマに、窓口開設のキックオフフォーラムが開催される。放送大

足立区

子ども食堂に行ってみよう!(子ども食堂MAP)

足立区内で開催されている子ども食堂のマップを更新しました!



子ども食堂MAP(2018年12月版)(PDF:158KB)

- 注1) 子ども食堂によって開催日や社会費が異なります。
- 注2) 開催日が変更になる場合があります。予約制でない場合は事前のご確認をお願いします。
- 注3) 区内の子ども食堂のうち、掲載希望のあった子ども食堂のみを表示しています。
- 注4) 表示される子ども食堂は今後変更になる場合がございます。

豊島区

いる。



初期費用や運営費の補助はあるの？

自治体	補助内容
東京都	活動1回当たり1万円 (年間24万円上限)
荒川区	実施1回当たり7千円+参加対象者300円/人
北区	月2回以上、初期費用10万円上限、運営経費20万円上限
台東区	月2回以上 基本分10万円/月

東京都の調査以降に

渋谷区社協	年額10万円を限度
新宿区	数年にわたり月1回以上、上限30万円

「子供の居場所」づくりに対する財政支援の一覧【東京都の一部】(平成30年4月現在)(内閣府調べ)

<http://compass-navi.or.jp/information/post-32.html>

担当課・連絡先	施策名・予算額	支援対象(支援を受けられる方)	支援の概要(趣旨、補助率等)
東京都 福祉保健局 少子社会対策部家庭支援課 子育て事業担当 TEL 03-5320-4371	★子供食堂推進事業 (H30 1,200万円)	区市町村、子供食堂実施者	子供食堂の安定的な実施環境を整備することで、地域に根差した子供食堂の活動を支援する。補助基準額は活動1回当たり1万円(年額24万円上限)。 (補助率) 10/10
荒川区 子育て支援部子育て支援課 管理調整係 TEL 03-3802-3111 (内線3812) https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kosodate/shisetsu/kodomonobasho.html	荒川区子どもの居場所づくり事業及び子ども食堂事業 (H30 1,335万円)	10人以上の構成員がいる団体 (子ども食堂事業にあつては5人以上) (ただし、過半数が荒川区の区域内居住者又は勤務又は通学者であるものに限る)	【子どもの居場所づくり事業】 生活困窮世帯、ひとり親家庭その他の支援を必要とする家庭の子どもを対象とした、①週1回程度以上行われる居場所事業②学習体験事業に対し次の基準額のとおり補助を行う。 【基準額】①実施1回あたり1万5千円+参加対象者1千円/人②実施1回あたり5千円+参加対象者500円/人 【子ども食堂事業】主に、生活困窮世帯、ひとり親家庭その他の支援を必要とする家庭の子どもを対象とした、食堂事業に対し次の基準額のとおり補助を行う。 【基準額】実施1回あたり7千円+参加対象者300円/人
北区 教育委員会事務局 子ども未来部子ども未来課 次世代育成係 TEL 03-3908-9361	★子どもの居場所づくり(子ども食堂)支援事業 (H30 350万円)	区内で事業(子ども食堂)を実施するNPO法人やボランティア団体	1 対象事業 ・食事の提供に関すること ・勉強や遊びなど、子どもが安心して過ごせる環境づくりに関すること等 2 開催頻度 月2回以上、定期的を実施すること 3 補助金額 ・初期経費 10万円を上限 (対象:工事請負費、備品購入費、教育訓練費(食品衛生責任者)) ・運営経費 20万円を上限 (対象:賃借料・会場借上費、需用費(消耗品、印刷製本、食材)、役員費(交通費、保険料、通信費)) ※初期経費の申請は初年度のみ
台東区 区民部子育て・若者支援課 TEL 03-5246-1237	台東区子供育成活動支援事業補助金 (H30 750万円)	台東区内で事業を実施する社会福祉法人、特定非営利活動法人その他区長が認めた団体	次に掲げる全ての事業を継続的に行う場合、補助金を交付する。 (1)子供が集い、交流する場の提供及び子供の交流の促進に関する事業 (2)学習指導及び相談、進学相談等に関する事業(週2回) (3)栄養バランスの取れた食事を提供する事業(月2回) 補助率 基本分 10万円×実施月数 推進加算分 30万円 ※推進加算分は当該年度に新規で事業の実施場所を開設する場合又は必要実施回数を超える回数を実施する場合に加算。ただし、当該年度において1回限りとする。

3. 「子ども食堂」の目指すべき姿

「気まぐれ八百屋 だんだん子ども食堂」のチラシから

『一緒にだんだんに食べに行こうよ、と子ども同士で誘いあって入りにくい暖簾をくぐって来てくれるような「居場所作り」をしています。子どもの悩みを聞いてくれるおじいちゃんおばあちゃんも食べに来てくれるようお声がけをして、最近あまり見かけなくなった、三世代の団欒を、地域全体で作り上げることが目標です』

2012年に取り組みを開始した子ども食堂の名付け親 近藤博子さん



4. ヒアリング調査の「生の声」



会場の確保でいつも苦労してます。

空き家情報があれば！

相談なんかもワンストップで出来れば最高です

みんなで情報を共有したい。

町内掲示板も使いたいけど

物的な、経済的な支援があれば助かる。

認知度を上げたい。

ネットの掲示板が使えるといい

もっと「子ども食堂」のことを知ってほしい

公共の駐輪場も使えればいいな



【政策提案】 「子ども食堂」のヒアリング調査から見たこと

板橋フォーラム実行委員会

	子ども食堂名	行政(社協・板橋区・東京都・国)への要望・提案など					
		ネットワーク化	認知度向上策	開設場所	総合相談窓口	物的・経済的支援	その他
1	A 子ども食堂	① 情報交換の場はあるといい 子ども食堂ネットワークは有意義	②	③	④	⑤ 支援があればうれしい	⑥
2	B 子ども食堂	① 情報提供・共有の場は活用したい 食材提供とその情報発信の仕組みを希望	②	③ 食材提供とその情報発信の仕組みを希望	④	⑤ 経済的支援はもっと充実を 食材提供とその情報発信の仕組みを希望	⑥ 店の定休日他に場所の提供もOK。開始前には勉強の場として開放
3	C 子ども食堂	① ネットワーク化をして情報交換をしたい 炊飯器の融通ができる	② 最寄りの小学校からチラシの配布を断られ、校門前で配布	③ 総合相談窓口は必要(「たらい回し」の対応がまだ存在する)	④ 社協やボラセンには具体的な支援内容の明示を望む	⑤ 食堂は貧困対策としてではなく、地域とのつながり・恩返しのもつり	⑥
4	D 子ども食堂	① 情報が少ないので、ネットワークを活用したい	②	③ 会場確保が大きな課題(抽選・事前の告知・調理室の使い勝手など)	④ 空き家情報が欲しい(会場確保から他の場所を探している)	⑤ 公的資金援助は最大限に活用したい	⑥ チラシ作成のサポートや「子ども食堂ハンドブック」があるといい。
0	E 子ども食堂	① 他の子ども食堂の情報は知りたい(ネットワークが有効だろう)	②	③	④	⑤ 資金は余裕あり。利用者が増えれば設備等の改造も検討	⑥ 「社会福祉法」改正による社会貢献の一環で実施
6	F 子ども食堂	①	② 子ども食堂の周知のためには、行政の関連施設にチラシ掲示・配布が必要	③	④	⑤ 食堂運営は福祉的要素も高く、会場費、人件費などの補助が必要	⑥ 子ども食堂を小学校区の数まで増えたい
7	G 子ども食堂	① 「子ども食堂」で対応の難しいケースの学校などとの連携の仕組みを	② 「子ども食堂」の社会的活動の重要性と必要性を認めるべき。一方で認知度向上を図るよう	③	④ 役所への対応の不手際は子ども食堂に限らず、広く行政サービスに関わる問題にも言える	⑤ 開設時の公的費用補助を(始める人が増える) ・公的支援はあるに越したことはない	⑥
8	C 子ども食堂	① SNSを通じて子ども食堂に関心を持つ若者とつながりたい	② 子ども食堂の認知度UPのビラ配りや掲示板活用をしたい	③ 多世代交流のための空き家情報が知りたい	④ 初めての人には相談窓口が不明。総合相談窓口の開設が必要	⑤ 公的支援があれば、必要な台車などの備品も購入できる	⑥
9	D 子ども食堂	① 有効なネットワークとは何かを考えて欲しい(予算の効果的な使い方)	②	③	④	⑤	⑥ ・教育的側面と福祉的側面を持つ部署を跨いだ政策策定・実施が必要 ・行政としての連携強化(教育委員会と子ども政策課) ・子どもの子ども食堂運営への参加を進めたい
10	E 子ども食堂	① 情報が共有できる「困りごと掲示板」などSNSなど利用した仕組みづくりを	② 「子ども食堂」のポスター掲示、チラシ配布などの制約の緩和措置	③	④	⑤ 支援金・補助金の関わる各種申請書類の提出要件緩和	⑥
11	F 子ども食堂	① 相談できる関係づくりや情報の共有できるネットワークを望む	② 行政が「子ども食堂は安心できる場所」という情報発信を担って欲しい	③ 空き家/空きスペース情報が共有できるといい	④ 総合相談窓口は初めての人には必要な機能	⑤ 公的支援による立ち上げ(初期費用)はとでも有効	⑥ 対応の難しい人にはエキスパートにつなげる仕組みが望ましい
12	G 子ども食堂	①	② 「子ども食堂」の地元への周知(チラシ・看板・口コミ)、浸透させたい	③	④	⑤	⑥
13	H 子ども食堂	①	②	③ 「学習支援」活動との連携やシニアとの交流の場作りを進めたい	④	⑤ より厚い金銭的支援を要望	⑥ 「教育」行政と「福祉」行政の縦割り解消を
14	I 子ども食堂	①	②	③	④ 開設前に訪問した区役所の対応に憤慨・総合相談窓口の開設が必要	⑤	⑥ 利用者用に公共の駐輪場を随時開放 ・飲食店が子ども食堂をもっと開いてほしい
15	J 子ども食堂	① ボラセンが進めた「まちの学校」のメンバーと参加	② 「子ども食堂」認知に向けた行政の後押し	③	④ 総合相談窓口があれば活用したいし、情報交換の場は必要	⑤	⑥
16	K 子ども食堂	①	②	③	④	⑤	⑥
17	L 子ども食堂	①	②	③	④ 運営上のリスクについての適切な助言	⑤	⑥ 行政中での「子ども食堂」の位置づけを明確にし必要な施策推進
18	M 子ども食堂	①	②	③ 条件の厳しい公的施設が利用できるよう支援が欲しい	④	⑤ 開設時の「資金」と「場所」に行政の援助があると助かる	⑥

5. 板橋フォーラムからの「政策提案」

「子ども食堂」継続と発展に向けた政策提案

全庁的な事柄

- 社会的位置づけの向上促進
- ネットワーク構築

行政の各部署にまたがる事柄

- ワンストップ総合相談窓口
- 後援による支援
- 支援金の創設
- 駐輪場の許可（対象食堂のみ）
- チラシ配布（対象食堂のみ）
- 区内掲示板の利用（対象地域のみ）
- 集会所利用（対象地域のみ）
- 空き家情報共有
- パトロールでの巡回（対象食堂のみ）

主としてインターネット環境に関わる事柄

- 運用ハンドブック
- インターネット掲示板の設置
- パソコンなどソフト面への人的サポート

広報活動

- 講演会・講習会の開催
- 「子ども食堂」に関する映画鑑賞会

「子ども食堂」継続と発展に向けた政策提案 [4-1]

全庁的な事柄

▶ 社会的な位置づけの向上促進

子ども食堂の「周知」⇒「認知」⇒「信用」

▶ ネットワーク構築

情報の共有・情報の交換の場づくりとSNS上でネットワーク構築

▶ ワンストップ総合相談窓口

行政と区民の接点であり、行政サービスの強化

「子ども食堂」継続と発展に向けた政策提案 [4-2]

行政の各部署に
またがる事柄

- ▶ 後援による支援 一定の条件のもとに行政の後援を与える
- ▶ 支援金の創設 立ち上げ時及び運営経費の補助制度創設
- ▶ 駐輪場の許可 公共施設の駐輪スペースの利用許可
- ▶ チラシ配布 公共施設（保育園、学校、福祉事務所など）での
配付、掲示の許可
- ▶ 区内掲示板の利用 開催の告知を区設掲示板利用の許可
- ▶ 集会所利用 利用条件（規定、利用料などの）緩和措置
- ▶ 空き家情報共有 基本情報の開示により情報の共有化
- ▶ パトロールでの巡回 警察官の巡回要請

「子ども食堂」継続と発展に向けた政策提案 [4-3]

主としてインターネット環境に
関わる事柄

▶ 運用ハンドブック

有効な情報を提供、インターネット上でもダウンロードを

▶ インターネット掲示板の設置

食堂運営者間で迅速、即効性のある情報交換

▶ パソコンなどソフト面への人的サポート

情報作成のサポート・支援体制構築

「子ども食堂」継続と発展に向けた政策提案 [4-4]

広 報 活 動

▶ 講演会・講習会の開催

区民向けの「子ども食堂」に関する講演会や始める方向けの講習会

▶ 「子ども食堂」に関連する映画鑑賞会

「子ども食堂」を含めた教育・福祉関連映画の上映

日本のような豊かな国にも、このような飢えを感じている人がたくさんいます。人間の愛とはどんなものか忘れてしまった人がたくさんいます。誰も愛してくれる人がいないからです。

ですから、さっそく実行しましょう。愛の喜びを周囲の人々にあげるように。まず家庭で、それから隣近所の人々へ。

町を歩いて気がついたのは、日本の多くの人には弱い人、貧しい人に無関心です。物質的に貧しい人は他の貧しい人を助けます。精神的には大変豊かな人たちです。

物質的に豊かな多くの人には他人に無関心です。精神的に貧しい人たちです。愛の反対は憎しみと思うかもしれませんが、実は無関心なのです。憎む対象にすらならない無関心なのです。

マザーテレサさんの言葉

(1979年にノーベル賞を受賞。1981年青山学院での講演で)

6. まとめ 進み始めたこと

実現しています！！

3月に「いたばし子どもの居場所マップ」が完成しました。学校にも配布しています。
(板橋区社会福祉協議会がHPから)



子どもの居場所づくり活動支援事業

いたばし子どもの居場所マップをお配りしています。

平成31年3月に「いたばし子どもの居場所マップ(A3サイズ)」が完成しました。

各窓口などで配布するほか、板橋区立の小中学校全児童生徒に縮刷版(A4サイズ)を配布いたしました。

いたばし子どもの居場所マップ ダウンロード版(PDF)

<http://www.itabashishakyo.jp/uploads/fckeditor/file/news/map2019.pdf>

ダウンロード
ができます。

少しずつ進み始めました！！

坂本区長の平成31年度区議会定例会での『施政方針』

この中で

「全国的に子どもの居場所として注目されております子ども食堂につきましては、運営民間団体等に対しまして、食堂の安定した運営を支援する事業を開始する」ことを発表されています。

また、ある議員からの、「今年度から開始されるクラウドファンディング型ふるさと納税を導入に関連し、その適用を子ども食堂や子ども宅食などもよいと考えますが、いかがでしょうか？」という質問に

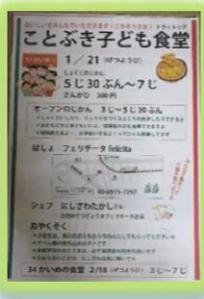
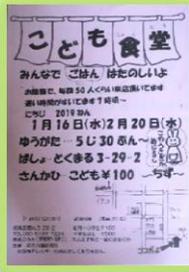
「子ども食堂につきましては、平成31年度より運営費の支援事業を開始する予定であります。当該支援事業の利用状況等を踏まえ、クラウドファンディング型ふるさと納税の導入について、その必要性等について検討していきたいと考えています」と答弁されています。

- ☆ 今年1月、板橋区が『SDGs』（持続可能な開発目標）先進度調査で、全国8位になり、その取り組みを一層強化しようとしている。
- ☆ 平成31年度 区議会「施政方針」で、区長は「子ども食堂」の運営者に事業継続の支援を行うと発表した。
- ☆ 板橋区社会福祉協議会で3月に「居場所マップ」を作り、「居場所づくり連絡会」も継続して行っている。
- ☆ 4月に実施された板橋区長選挙「公開討論会」で、坂本区長は「区内の「子ども食堂」に対しては、板橋区として独自の補助を出すべきである」との質問に○と答えた。

今回のヒアリングで、板橋フォーラムが運営者の皆さまからの声を聞いて「政策提案」したものが、一つずつでも政策に反映されていくことは、望外の喜びです。少しずつですが、前に進み始め、またその兆しも見えてきました。

村木厚子さん（元厚生労働省事務次官）の言葉

社会保障の負担は国民が決めることですが、
最悪の組み合わせは
「もらいたいけども払いたくない国民」と
「配りたいけども集めたくない政治家」
がいる状態だそうです。



ご清聴ありがとうございました。